

事後評価結果（平成28年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課
担当課長名：谷村 昌史

事業名	一般国道232号 天塩バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道天塩郡天塩町字北川口 至：北海道天塩郡天塩町字更岸	延長	8.0 km		

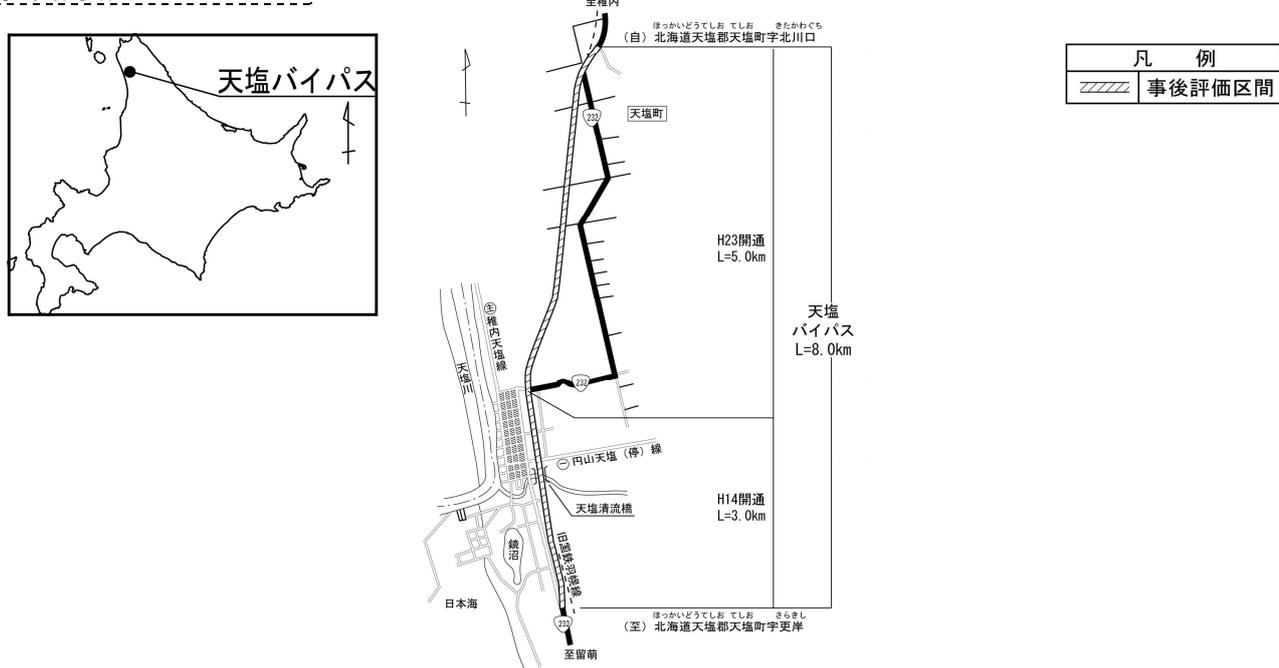
事業概要

国道232号は、稚内市から留萌市に至る延長129 kmの幹線道路である。このうち天塩バイパスは、天塩町字北川口から更岸に至る延長8.0 kmのバイパス事業である。

事業の目的・必要性

天塩バイパスは、天塩市街地における線形不良の解消、地吹雪による視程障害の低減を図り、道路の安全な通行の確保を目的とした事業である。

事業概要図



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H5年度	用地着手	H6年度	供用年	(当初) H21年度/— (実績) H23年度/—	変動	1.1倍
		都市計画決定	—年度	工事着手	H6年度	(暫定/完成)	(実績) H23年度/—		
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) —/ (実質値) —/	53億円 46億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) —/ (実質値) —/	50億円 43億円	変動	0.9倍
	交通量	計画時 (現道232号)		3,620 台/日	実績 (現道/当該路線)		406/2,818 台/日	変動	89%
	旅行速度向上 (開通前現道→開通後現道 /当該路線)	52.5 → 59.5/61.3 km/h (開通前年次) H11年 (開通後年次) H27年	交通事故減少 (開通前現道→開通後現道 /当該路線)	58.5 → 0.0/0.0 件/億台km (開通前年次) H12~H14年平均値 (開通後年次) H25~H26年平均値					
費用対効果 分析結果 (当初)	B/C: 1.2	総費用	83億円 (事業費: 64億円 維持管理費: 20億円)	総便益	97億円 (走行時間短縮便益: 88億円 走行経費減少便益: 5.0億円 交通事故減少便益: 3.7億円)	基準年	平成19年		
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C: 1.03	総費用	105億円 (事業費: 78億円 維持管理費: 27億円)	総便益	108億円 (走行時間短縮便益: 94億円 走行経費減少便益: 13億円 交通事故減少便益: 1.4億円)	基準年	平成28年		
事業遅延によるコスト増		費用増加額	—5.5億円	便益減少額	11.2億円				

事業遅延の理由

本事業は、平成5年度に事業化し、平成6年度に工事着手した。当初、平成21年度の完成を目指していたが、用地取得、軟弱地盤対策に時間を要したことにより、事業完了が平成23年度になった。

客観的評価指標に対応する事後評価項目

事業の整備効果

- ①冬期走行環境の安全性向上
 - ・地吹雪による吹き溜まりや視程障害による通行止めが改善し、冬期走行環境の安全性が向上。
- ②道路交通の安全性向上
 - ・市街地内を走行していた大型車が転換され、死傷事故が解消。車道や歩道の拡幅により、走行性・安全性が向上。
- ③酪農畜産品の流通利便性向上
 - ・揺れや振動が減少し、輸送時の生体牛のストレスによる体重減少などが軽減され、品質の向上等により平均取引単価が約1.7倍に増加。
- ④水産品の流通利便性向上
 - ・揺れや振動が減少し、輸送時のほたて稚貝のへい死が減少するなど、品質の向上等により平均入荷量が約9百万粒増加。
- ⑤観光地への利便性向上
 - ・当該道路の一部供用整備にあわせ道の駅「てしお」の開駅、「シーニックバイウェイ北海道」ルートや広域観光周遊ルートに認定されるなど、アクセス利便性向上や道外客の入込増加により、天塩町内の観光消費額は約1.3倍に増加。
- ⑥救急搬送の安定性向上
 - ・天塩町から稚内市、名寄市、旭川市への医療施設への救急搬送ルートや、出張医の送迎ルートとして活用されるなど、救急搬送の安全性・安定性また特に冬期の確実性が向上。

その他評価すべきと判断した項目

特になし

事業による環境変化

環境影響評価に対応する項目

環境影響評価の対象外事業である。

その他評価すべきと判断した項目

特になし

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 人口・産業等の社会経済情勢の変化 (対象地域：天塩町)
 - ・人口は、事業化当時約5.3千人(H2)→開通後約3.2千人(H27)となっている。(国勢調査)
 - ・農業産出額は、約62億円(S60)→約46億円(H18)となっている。(北海道農林水産統計年報)
 - ・漁獲金額は、約634百万円(H5)→約415百万円(H26)となっている。(マリンネット北海道)

今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性

天塩バイパスの整備により、市街地の線形不良の解消、地吹雪による視程障害の低減を図り、安全な通行の確保など、当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないものとする。

なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

同種事業の計画・調査のあり方について、見直しを必要とする事項は見られなかった。また、事業評価手法について、見直しの必要性は無いと考える。

特記事項

特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。